

第54回国立大学法人筑波技術大学経営協議会議事要旨

- 1 日 時 平成28年3月14日（月） 14：00～16：30
- 2 場 所 国立大学法人筑波技術大学管理棟会議室
- 3 出席者 石塚和重、石原保志、大越教夫、川村恒明、須藤正彦、宅 清光、竹下義樹、谷川彰英、内藤一郎、廣瀬 寛、和田佳彦
（五十音順、職名省略）
オブザーバー 大島慎子（監事）

4 配付資料

- 1-1 第53回国立大学法人筑波技術大学経営協議会議事要旨（案）
- 1-2 平成27年度国立大学法人筑波技術大学臨時経営協議会議事要旨（案）
- 2 平成26年度自己評価書（案）の概要・平成26年度自己評価書（案）
- 3 平成28年度国立大学法人筑波技術大学年度計画（案）
- 4 国立大学法人筑波技術大学役員給与規程の一部改正（案）の概要
- 5 国立大学法人筑波技術大学職員給与規程の一部改正（案）の概要
- 6 国立大学法人筑波技術大学年俸制適用職員給与規程の一部改正（案）の概要
- 7 平成28年度予算（案）
- 8 平成27年度余裕金運用実績
- 9 監事監査報告書
- 10 平成28年度大学院技術科学研究科入試実施状況（専攻・志望コース別）
- 11 平成28年度入試実施状況（産業技術学部・保健科学部）
- 12 平成28年度機能強化経費「機能強化促進分」における評価結果
- 13 平成27年度経営協議会学外委員からの意見の対応状況

5 前回議事要旨の確認について

議長から、前回及び臨時会議（書面審議）議事要旨について、資料1-1～2に基づき説明があり、原案どおり確認された。

6 審議事項

（1）平成26年度自己評価書について

事務局から、資料2に基づき、平成26年度自己評価書（案）について説明があり、これについて、委員から次のような発言があった。

- ① 若手教員の採用を進めることは、年齢構成や研究上の理由によるものか、ど

こちら出てきたものか。

- ② 定員割れは両学部で生じているにもかかわらず、この分析を抜きにして鍼灸学専攻の定員割れのみに着目していることは客観的ではなく、この問題を明確にする分析が必要である。また、改善に向けた外部有識者との検討は、どのような内容か。
- ③ 大学院情報アクセシビリティ専攻は、院生のレベルアップを検討の上、設置されたと思うが、研究支援体制がまだ十分に整備されていないのは問題である。なぜこのような状況となっているのか。
- ④ 「授業改善ハンドブック」とは、どのようなもので、どのように使用されているか、教育効果はあるか。今後さらに内容を充実させ、将来は、障害者教育のために学外へ発信することを検討願いたい。また、アクティブラーニングは、大学教育の重要な課題であるため推進していただきたい。
- ⑤ 21世紀の大学の姿を考えた場合、国際化は避けては通れない。本学は他大学と異なり、難しい問題を抱えていることは承知しているが、「留学生センター」の設置構想もあり、留学生や外国人教員を積極的に受け入れる努力をしていただきたい。
- ⑥ 定員割れ問題の改善として、現在、どのような対策を行おうとしているか。一般的に、テーマに対する取り組みは、抜本的改善、改革に近いものであり、これを部内で行う場合、経験上、変曲点を伴う改善は果たし得ない。改革に必要な項目・内容、これを実行する時間軸の設定等は、この会議体で決定していただきたい。
- ⑦ 視覚障害者の数が、その年次により減少して来るという場合は、入学定員数を減らすことはできるが、単に、志願者が減少していることや入学後に退学者が発生しているという事実だけで、入学定員数を減らすことは、絶対に行っていけないことである。

これらの質疑応答の後、必要な修正等は学長に一任することとし、役員会で審議することが承認された。

(2) 平成 28 年度年度計画について

事務局から、資料 3 に基づき、平成 28 年度年度計画（案）について説明があり、これについて、委員から次のような発言があった。

- ① 資料が事前に送付されなかったので、自己評価の結果を踏まえた年度計画の特徴をお教えていただきたい。
- ② 中期計画は具体的で分かりやすいが、年度計画は、抽象的な記載個所が多く見受けられる。具体的に記載しないと評価を考えた場合、後で困るようなことにならないか。文部科学省から、事業年度の到達指標を明確に記載すること等、強い指導もあるので、平成 29 年度は年度計画らしく整理願いたい。

③ 国際貢献は、何年もかけて行っていく必要がある。教育を輸出するという発想があり、日本の高いレベルの教育を発展途上国等へ伝達し、発展に貢献するということである。本学は未だ閉鎖的な感じが否めず、単なる国際交流ではなく、貢献しないと相手側は受け入れてはくれない。視覚、聴覚障害者の教育モデルを構築するようなビジョンを持って検討を進めていただきたい。

これらの質疑応答の後、必要な修正等は学長に一任することとし、役員会で審議することが承認された。

(3) 役員給与規程の一部改正について

事務局から、資料4に基づき、役員給与規程の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(4) 職員給与規程の一部改正について

事務局から、資料5に基づき、職員給与規程の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(5) 年俸制適用職員給与規程の一部改正について

事務局から、資料6に基づき、年俸制適用職員給与規程の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(6) 平成28年度予算(案)について

事務局から、資料7に基づき、平成28年度予算(案)について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、委員から、保健科学部附属東西医学統合医療センター長管理職手当の見直し理由及び同センター経費の減額要因等について発言があり、質疑応答が行われた。

7 報告事項

(1) 余裕金の運用実績について

事務局から、資料8に基づき、平成27年度余裕金の運用実績について報告があった。

(2) 監事監査(11/25, 12/16)の監査結果について

議長から、資料9に基づき、監事監査(11/25, 12/16)の監査結果について報告があった。

(3) 平成28年度大学院技術科学研究科入試実施状況(追加募集)について

事務局から、資料10に基づき、平成28年度大学院技術科学研究科入試実施状況(追加募集)について報告があった。

(4) 平成28年度個別学力検査等(前期日程)の実施状況について

事務局から、資料11に基づき、平成28年度個別学力検査等(前期日程)の実施状況について報告があった。

(5) 平成28年度機能強化経費「機能強化促進分」における評価結果等について

事務局から、資料 12 に基づき、平成 28 年度機能強化経費「機能強化促進分」における評価結果等について報告があった。

また、委員から次のような発言があり、質疑応答が行われた。

- ① 第 3 期中期目標期間における戦略と取組構想のうち「3 合理的配慮を踏まえた職域拡大支援」の評価が低いが、これをどのように捉えているか。
- ② 今回の評価結果の反省として、来年度は戦略・取組構想を増やすなど、具体的な取組み方針を考えているか。

(6) 経営協議会学外委員からの意見の対応状況について

議長から、資料 13 に基づき、前回会議において学外委員から意見があった運営費交付金機能強化経費「機能強化促進分」関係について、報告事項（5）の報告をもって本議事に代える旨説明があった。

(7) その他

議長から、和田理事の 3 月 31 日付け退任について紹介があり、同理事から退任の挨拶があった。

以 上